



ぶどう特報 No.8



2021年7月16日
JA 中野市営農センター
JA 中野市ぶどう部会

7月初旬から、市内全域で黒とう病被害が発生中です。裏面を参考に対策を実施してください。

水まわり期後に適宜新梢管理を実施し、園地内の適度な明るさを確保してください。

2021年	満開 (平年比・前年比)	水まわり(ベレーゾン)目安 (満開 35~40 日頃)	収穫開始時期目安
巨峰 (長梢・自然系)	6/11 (+1・+2)	7/16~7/21 頃	9/1 頃(満開80~90日頃)
シャイン (短梢H型)	6/18 (+3・+5)	7/23~7/28 頃	9/17 頃(満開90~100日頃)

※水まわり(ベレーゾン)とは、果粒が軟化し弾力が出てくる時期をいう。黒系ぶどうでは着色し始める。

【第11回 定期散布】

散布時期	前回防除から10日後	散布日	月	日
散布薬剤	水 ICボルドー66D テルスター水和剤	100 L 2.5 kg (-) 100 g (14日前・1回以内)		
散布量	400L / 10a			
対象病害虫	べと病、さび病、晩腐病、チャノキアザミヤ			
注意事項	<p>【農薬飛散(ドリフト)注意】近隣園地の収穫物へのボルドー汚れ防止、モモ・プラム等への薬害防止のため、ボルドー剤を散布する際は、近隣園地に飛散しないように注意する。</p> <p>① テルスター水和剤を混用する際は、散布の直前に混用する。</p> <p>② ICボルドー66Dに代えてムッシュボルドーDF 500倍、コサイド3000 2,000倍でもよい。ムッシュまたはコサイドを使用する場合は、高温時での散布、降雨前や降雨直後の葉に水気がある状態で散布すると薬害が発生しやすくなるため、心配ならクレフノン100倍を加用する。</p>			

【第12回 定期散布】

散布時期	前回防除から10日後	散布日	月	日
散布薬剤	水 ICボルドー66D	100 L 2.5 kg (-)		
散布量	400L / 10a			
対象病害虫	べと病、さび病、晩腐病			
注意事項	<p>【農薬飛散(ドリフト)注意】近隣園地の収穫物へのボルドー汚れ防止、モモ・プラム等への薬害防止のため、ボルドー剤を散布する際は、近隣園地に飛散しないように注意する。</p> <p>① ICボルドー66Dに代えてムッシュボルドーDF 500倍、コサイド3000 2,000倍でもよい。ムッシュまたはコサイドを使用する場合は、高温時での散布、降雨前や降雨直後の葉に水気がある状態で散布すると薬害が発生しやすくなるため、心配ならクレフノン100倍を加用する。</p>			

【裏面 黒とう病対策記載】

次回特報配布予定：8月3日(火)

シャインマスカット黒とう病発生時の対策

先週から市内各地で「黒とう病」の発生が報告されています。
今後の降雨・頭上かん水での伝染が予想されますので、以下の対応を早急に実施してください。

1. 病斑について



粒の病斑



葉の病斑



新梢の病斑

病斑の特徴

発生場所：粒・新梢（葉・枝）

色 形：黒色 又は 黒い円の中央部灰白色（鳥の目のような）

大きさ：2～5mm

伝染方法：水（雨や頭上かん水。降雨のたびに伝播を繰り返す）

その他：若い葉では、伝染から1日くらいで病斑を現し、成葉では3～4日で発現する。

一度発生すると2～3年かけて防除が必要となる。

※若木（主枝）に入ると3年は病害の発生が続くので注意する。

発生場所	病斑の見た目	特徴
粒	黒い円形（病斑部やや凹む）	粒発生の場合、上部の新梢にも発生している場合があるので注意する。
葉	黒い円形 又は 黒い円の中央部灰白色（病斑中心に穴が開く場合あり）	・若い組織に入りやすい。 （新梢先端や副梢に多く、新梢基部は少） ・淡褐色～黒褐色の病斑ができ、しだいに穴が開く
新梢（枝）	黒い楕円の中央部灰白色	新梢の先端部で多くみられる。 葉柄にも発生。

2. 対策について（優先順位）

- ① 【必ず実施】 病斑を切除し園地外へ持ち出し処分をする。
- ② 【病斑切除後】 防除の実施 ⇒ 10日間隔の定期防除の徹底
- ③ 【病斑切除後】 袋かけの実施 ⇒ 粒への伝染は防げる

防除のみでの対策は不可能です。

- ※ 必ず病斑を切除する耕種的防除を実施してから防除する。
- ※ 病斑の早期に発見することで被害の拡大を防げる。
- ※ 過去に発生があった園地や若木の園地は特に注意して確認をする。
- ※ 降雨から2～3日後には発生がないか再確認をする。